



ニューヨーク
補習授業校
学校だより

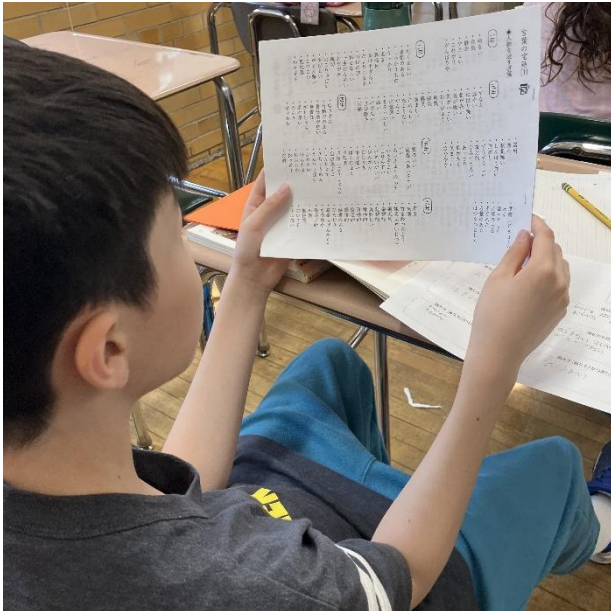
日本語を話す仲間と日本語で学ぶ補習校

補習校協育



令和7年(2025年)5月15日 第7号 校長 小島 昇

日本語を話す仲間と 日本語で学ぶ土曜日(5/10)

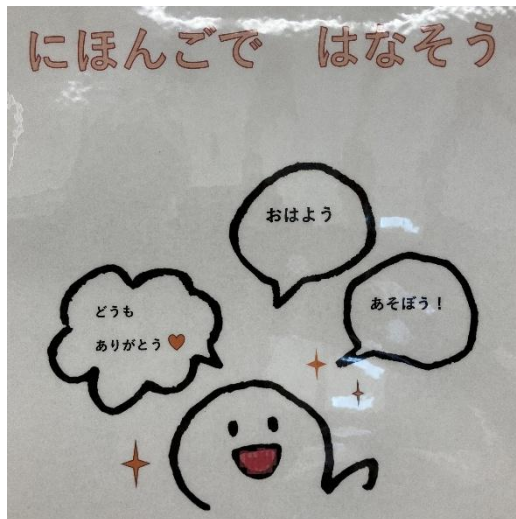


1校6年生の国語の授業。登場人物「律」と「周也」の人物像を捉える授業でした。作品は「律」の視点で書かれた「1」と「周也」の視点で書かれた「2」で構成されています。この時間は、2人の登場人物がそれぞれ思う自分自身、「律」から見た「周也」と「周也」から見た「律」、読み手である私から見た「律」と「周也」の3つの視点から人物像を読み深めました。人物像を表す叙述に着目し、子どもたちは「落ち着きがない」「積極的」「のびのびしている」「強がり」など「人物を表す言葉」を集めた参考資料も手掛かりにしながら人物像を表現していました。

日本語を話す仲間と、日本語で書かれた作品と一緒に読み、視点が違うと登場人物の人物像も異なって見えることを学んでいました。週に1回土曜日だけの補習校ですが、学びを深めている子どもたちの姿を見ることができました。

1年生の教室には「にほんごで はなそう」「きょうかしょをもって おんどくを しよう」と

掲示されています。平日は現地校に通い、英語環境で過ごしている子どもたちは、家庭での言語環境によっては、日本語での学びに苦戦することもあるでしょう。それでも各家庭で日本語力を維持、発展させる



環境を整え、補習校でも幼児部や初等部1年生から学習を継続し積み上げることで、上述の6年生のような授業が成立するようになります。1年生の教室で学ぶ子どもたちの5年後の姿が6年生の教室にあります。粘り強く補習校に通い続ける子どもたちを応援しています！

「週刊 NY 生活」硬筆書写コンクール夏期課題発表

「週刊 NY 生活」の硬筆書写コンクール第58回夏期課題の発表がありましたのでお知らせします。落ち着いて丁寧に字を書く時間を設けてみませんか。

個人で応募することができますが、本年度も学校に提出していただければ、校長が取りまとめて応募します。幼児の部から高校・一般の部まで部門がありますので、補習校の全員が応募することができます。学校を通して応募する場合は、6月21日（土）までに学級担任に提出してください。

●小学1・2年の部

ひらがなは、
ぜんぶで四十
六文字です。

姿勢を正し、最後まで丁寧に大きな字を書きましょう。

●小学3・4年の部

日本語学習は最初
に平がな、カタ
カナ、そして漢
字に続きます。

「とめ、はね、ほらい」をきちんと書き表し、長い縦画は真っ直ぐに書きます。

●小学5・6年の部

小学校六年間で学ぶ漢字は千百字以上、中学までの九年間の義務教育では二千百字以上の漢字を学ぶ。

字と字の間をあけること、そして行の中心に字を書き揃えると良いでしょう。

●幼児の部

あいいうえお

鉛筆をしっかりと持ち、力を込めてゆっくりと大きな字を書きましょう。

●中学の部

日本語は平仮名、片仮名、漢字の三種類を併用して書き表す。これ程多くの文字を使う言語は珍しく、日本語が難しい理由のひとつだ。

行頭を揃え、お手本をよく見ながら乱れなく書き写すことに集中します。

●高校・一般の部

いろは歌

色は匂へど散りぬるを
我が世誰ぞ常ならむ
有為の奥山 今日越えて
浅き夢見し 酔ひもせず

文字の一点一画に流れの表現を加え、調和が取れた書き方を心がけます。

募集要項と各部のお手本、規定応募用紙を本校ホームページの【在校生向けページ > 各種コンクール案内、応募要項】にアップロードしましたので、ご活用ください。

海外子女文芸作品コンクール応募にあたって

学校提出しめきり 6月7日

本年度も5月3日付けで案内を配付しました。毎年度、学校として積極的な取組を呼び掛けています。テーマは、海外生活を題材にしたものであれば自由です。審査基準は「海外生活での新鮮な感動・実感や経験を踏まえたもので、適切な表現がなされた作品」です。アメリカでの生活を題材としていけば、何を書いてもよいこととなります。誰にでも書ける内容でなく、自分だからこそ書ける内容を選んでほしいと思います。「したこと」「見たこと」「聞いたこと」よりも「思ったこと」「感じたこと」を表現すること、自分の素直な気持ちを書き表すことを保護者の皆様からアドバイスしていただけたらと思います。